

## APRU マルチハザードワークショップ「Localizing Disaster Risk Reduction Strategies in Asia and the Pacific」をハワイ大学にて開催しました（2023/02/21 - 23）

テーマ：防災、Localization（地域化）、環太平洋地域  
会場：ハワイ大学マノア校

2023年2月21-23日に、ハワイ大学マノア校・APRU マルチハザードプログラム・当研究所の共催により、ワークショップ「Localizing Disaster Risk Reduction Strategies in Asia and the Pacific」を開催しました。当研究所からは、APRU マルチハザードプログラムディレクターを務める泉貴子教授（国際防災戦略研究分野）が運営・参加・発表を行いました。東京海上ホールディングスおよびハワイのフォード島に拠点をもつ Center for Excellence in Disaster Management & Humanitarian Assistance（CFE-DM：災害マネジメントと人道支援のための CoE）により多大なご支援をいただきました。

21 - 22 日の2日間にわたり、以下の4つのセッションが開催されました。

1. Regional and Local Perspectives on Information Sharing in Humanitarian Assistance（Session lead: CEF-DM）
2. All-hazards Approach（Session lead: IRIDeS）
3. Building a Safer World through Effective Multi-Hazards Early Warning Systems（Session lead: Pacific Disaster Center）
4. Growing, Greening, and Cultivating Inclusivity in Disaster Risk Reduction（Session lead: University of Hawaii）

それぞれのセッションテーマに沿って、アジア太平洋地域における防災の地域化のための課題を、様々な国からの参加者（アメリカ、シンガポール、ニュージーランド、オーストラリア、日本、メキシコ、バハマ、パラオ、サモアなど）が発表・議論しました。その後、News Room Simulationとして、災害に関するメディア対応のエクササイズをハワイ大学の社会科学デジタルスタジオの学生とともに実施しました。このエクササイズは、災害の被害や情報をいかに効果的に放送・共有するかをシミュレーションを通して学ぶことを意図しています。23日には、フォード島の NOAA（アメリカ海洋大気局）、PWTC（太平洋津波警報センター）、CFE-DM を訪問し、それぞれの活動や研究について説明を受けました。

特に、PDC（太平洋災害センター）は当研究所の活動に大変関心をもたれ、ぜひ連携や協力を深めるために当研究所を訪問し、意見交換を行いたいと希望されています。今後も、APRU マルチハザードプログラム・当研究所は、ハワイ大学や東京海上ホールディングスをはじめ、様々な機関組織との連携を深め、アジア太平洋地域の防災の発展について議論を続けていく予定です。

